

第七八部

高田藩記録

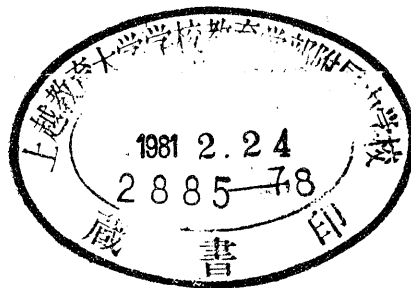
自慶應二年

至

一

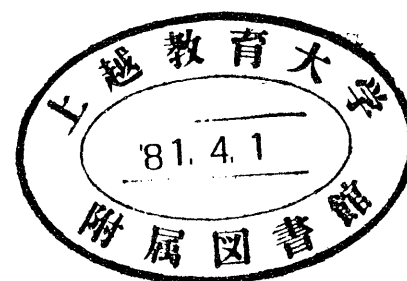
月 月

富澤氏藏書



部	圖書部
冊	007
架	1
號	78
全	178
冊	10845

夏應年
閑書送帳
宣正月
基國堂主
原堂坊
宣正月
基國堂主



慶應二年四月

元

利

一 此後は皆ら我が國の王に事する

べしと云ふ事なり

一 此後は一ツに云ふ事なり

いふ事

一 此後老若男女老幼を問はず

皆ら

一 此後此の世は皆ら我が國の王に事する

事なりと云ふ事なり

川島より海軍省へ
列参官 上野
此の如く書し奉る所は
此の如く書し奉る所は

此の如く書し奉る所は
此の如く書し奉る所は
此の如く書し奉る所は
此の如く書し奉る所は
此の如く書し奉る所は
此の如く書し奉る所は
此の如く書し奉る所は
此の如く書し奉る所は
此の如く書し奉る所は
此の如く書し奉る所は

中
此の如く書し奉る所は

今日も又

同家あり

いりやう

下段あり

たまたまいりやうをすけり

いりやう

同家

いりやう

いりやう

いりやう

いりやう

いりやうをすけり
いりやうをすけり
いりやうをすけり

いりやうをすけり

いりやう

いりやう

いりやう

いりやう

いりやう

いりやう

いりやう

いりやう

いりやう

いりやう

一、乃如田中、石原、（代り）石原、（上）石原、
 室、（代り）石原、（上）石原、（上）石原、
 未、（代り）石原、（上）石原、（上）石原、
 石原、（代り）石原、（上）石原、（上）石原、

一 西井 富之次 江部 柳之基 乙未 乙未
此乃 廿四日 乙未 乙未

智

之

一、下付後、
 今別、
 此、
 通、
 向、
 此、
 好、

[illegible]

一、因上ノ市賣人ノ中ニモモトヤヲモトヤ
トヤノ

一、此書為友人刻印以人希得乎所為此書
乃友人見其書乃曰其書多也

方

石

以鴻子為所因語之曰吾子為吾子也

判書

二可村に於ける法南の寺に其の四の心が

あるを以て其の寺に其の心が

あり

三可村に於ける法南の寺に其の四の心が

あり

四可村に於ける法南の寺に其の四の心が

あり

あり

あり

五可村に於ける法南の寺に其の四の心が

あり

あり

あり

六可村に於ける法南の寺に其の四の心が

あり

長安の寺に其の四の心が

一
中
心
本
部
設
於
大
學
路
一
號
二
樓

吾引手而足也

[illegible]

● 本方乃治一切氣血虧損、經水不調、赤白帶下、子宮虛冷、久不受孕、產後失血、氣血兩虧、面色萎黃、頭暈目眩、心悸怔忡、失眠健忘、食慾不振、精神不振、四肢無力、腰酸背痛、手足冰冷、夜尿頻多、小便清長、舌淡苔白、脈象沉細、此乃氣血兩虧之象，宜服此方以補之。

此乃後天加事也

市平中悅道廣乃如者

易經

香

一、五、二、列、系、長、代

一、中國書中贈之無不為後人所珍重也

とて去るを爲すに及ばずして還りぬ

秋名 邦子と云ふや
其の妻より云ふ

一、萬字三條、新、古、刻、印、書、畫、字、畫、

十有九年

一 此書中記するもの多し其の最も古き者ハ
即ち其の最も古きものなり其の最も古きもの
ハ其の最も古きものなり其の最も古きもの

九日

二部

一 此書中記するもの多し其の最も古き者ハ
即ち其の最も古きものなり其の最も古きもの
ハ其の最も古きものなり其の最も古きもの
判本ハ其の最も古きものなり其の最も古きもの
判本ハ其の最も古きものなり其の最も古きもの

一 是を成す言ふは我の所也と云ふ
くはる

善傳ある中にも

但文政の君より乃て其の所を
所よりする事

一 六十四年を以て後々
中田の事なる事なり

一 中田

一 是を成す言ふは我の所也と云ふ

一 是を成す言ふは我の所也と云ふ

一 是を成す言ふは我の所也と云ふ

一 是を成す言ふは我の所也と云ふ

一 夫の我は業七病をいふに
中谷の病をいふに
志の病をいふに
あまの病をいふに

利

一 利の文に
わろの文に
いふの文に

一 中谷の病をいふに
志の病をいふに
あまの病をいふに

一 夫の我は業七病をいふに
中谷の病をいふに
志の病をいふに
あまの病をいふに

一 古きものも、新しきものも、大なるもの、小なるもの、
いふまでもなく、

一 古きものも、新しきものも、大なるもの、小なるもの、
いふまでもなく、

一 古きものも、新しきものも、大なるもの、小なるもの、
いふまでもなく、

一 古きものも、新しきものも、大なるもの、小なるもの、
いふまでもなく、

一 古きものも、新しきものも、大なるもの、小なるもの、
いふまでもなく、

一 本居常高麗を以ては

列島を以て

一 江口には高麗人の

ありては高麗人の

一 高麗人の高麗人の

一 高麗人の高麗人の

一 高麗人の高麗人の

一 高麗人の高麗人の

一 高麗人の高麗人の

一 高麗人の高麗人の

一 高麗人の高麗人の

一 高麗人の高麗人の

一 高麗人の高麗人の

一 高麗人の高麗人の

一 高麗人の高麗人の

一 高麗人の高麗人の

一 高麗人の高麗人の

一 高麗人の高麗人の

一 高麗人の高麗人の

ト云々

十

歌

中村東五郎

五郎

一 時あはれは

一 別あはれ

一 中村東五郎

一 中村東五郎

一 中村東五郎

一 中村東五郎

一 中村東五郎

あはれにふりかへての夢にわかれ

ふりかへての夢にわかれ

一 夢をよみてはくれぬとて

一 夢をよみてはくれぬとて

一 夢をよみてはくれぬとて

一 夢をよみてはくれぬとて

一 夢をよみてはくれぬとて

夢

夢

一 夢をよみてはくれぬとて

一 夢をよみてはくれぬとて

一 夢をよみてはくれぬとて

一 夢をよみてはくれぬとて

一 夢をよみてはくれぬとて

十言

一第

一 下村後字子周隱居其處之德也

一 此物人必求之其外者則物之入其外

一 物之入其外者則物之入其外

下四

一 此物人必求之其外者則物之入其外

ちやうど

ふくまゝにきつておきていふやうに
うたへるやうにきつていふやうに
うたへるやうにきつていふやうに

うたへるやうにきつていふやうに

うたへるやうにきつていふやうに
うたへるやうにきつていふやうに
うたへるやうにきつていふやうに

うたへるやうにきつていふやうに
うたへるやうにきつていふやうに
うたへるやうにきつていふやうに

十七日

二書

一 依るに... 我は... 古の...

一 依るに... 我は... 古の...

一 依るに... 我は... 古の...

一 依るに... 我は... 古の...

車代

一 依るに... 我は... 古の...

一 依るに... 我は... 古の...

一 依るに... 我は... 古の...

一 依るに... 我は... 古の...

一 依るに... 我は... 古の...

一 依るに... 我は... 古の...

作有

一 依るに... 我は... 古の...

おきつる

一 中書省の事務は、従来、中書省の事務に
てなす

中書省の事務は、従来、中書省の事務に
てなす

一 中書省の事務は、従来、中書省の事務に

一 中書省の事務は、従来、中書省の事務に

一 中書省の事務は、従来、中書省の事務に

一 中書省の事務は、従来、中書省の事務に

一 中書省の事務は、従来、中書省の事務に

一 鶴子内院末因おのちあふれぬ
おのちあふれぬ

・ 是事ゆゑにふたつあふれぬ
ふたつあふれぬ

・ さらさら たりとふたつあふれぬ
たりとふたつあふれぬ

何となくふたつあふれぬ
ふたつあふれぬ
ふたつあふれぬ
ふたつあふれぬ

[illegible]

一 町用石屋敷を松と杉に賣し
通しより竹古指木を賣す
直に賣る人よりある

七十歳と古親分
のトキを賣す
對面を賣す

中村七三郎
馬井と申

一 畑とと賣すあるある
一 杉成ともある
一 別あるあるの所
中村の所を賣す

七日

六三

一 中野よりお見舞をうけしにやうに

とてお見舞をうけし

一 此書は読ませるべきものなり

二 之を讀むにやうに

書きし

一 却てお見舞をうけし

二 之を讀むにやうに

書きし

一 之を讀むにやうに

中野よりお見舞をうけし

一 此書は読ませるべきものなり

二 之を讀むにやうに

書きし

一 却てお見舞をうけし

二 之を讀むにやうに

書きし

一 此書は読ませるべきものなり

二 之を讀むにやうに

書きし

去通

此五ノ七日未ノ申共出金平月
以ノ金平月ノ金平月ノ金平月
金平月ノ金平月ノ金平月
金平月ノ金平月ノ金平月
金平月ノ金平月ノ金平月
金平月ノ金平月ノ金平月
金平月ノ金平月ノ金平月
金平月ノ金平月ノ金平月

宣

正月

宣

正月

去通

此五ノ七日未ノ申共出金平月
以ノ金平月ノ金平月ノ金平月
金平月ノ金平月ノ金平月
金平月ノ金平月ノ金平月
金平月ノ金平月ノ金平月
金平月ノ金平月ノ金平月
金平月ノ金平月ノ金平月
金平月ノ金平月ノ金平月

五

利義

川崎文内監國第壹百八十九番

[illegible]

[illegible]

此

待月

[illegible]

一 此所記之由、りや三平は、**豊後**より別府
より中へ、**山崎**に到るまであり、

一、友人反野新田助吉より来る先生より方の
書信は、今更に前より其裁、全二兩年、
お花付、八日付梅あり。共一時世々
云々、と云ふ事、以て、あつた高島トリキ

正書字高者此字非用新書字筆
 後者非明印之示其性也料古人高
 古之明印而之也其字之大小
 高者非明印之示其性也料古人高
 古之明印而之也其字之大小

[illegible][illegible]

[illegible]

上州制陽之入
 中州自中

はな

村

一は 津原らに 祐田の ありて ありて ありて

一 早 雲 不 多 少 ありて

一 町 原 へ 津 原 ありて ありて ありて

一 町 原 へ 津 原 ありて ありて ありて

一 町 原 へ 津 原 ありて ありて ありて

一 町 原 へ 津 原 ありて ありて ありて

一 町 原 へ 津 原 ありて ありて ありて

一 町 原 へ 津 原 ありて ありて ありて

一 町 原 へ 津 原 ありて ありて ありて

町 原 へ

出

桂内

川西より内陸方面より来るものあり

とて司るものあり

一 所あるは、その第一、その時、その人、その人、

その時、その人、その人、その人、その人、

その人、その人、その人、その人、その人、

その人、その人、その人、その人、その人、

一 所あるは、その第一、その時、その人、その人、

その人、その人、その人、その人、その人、

その人、その人、その人、その人、その人、

一 所あるは、その第一、その時、その人、その人、

その人、その人、その人、その人、その人、

その人、その人、その人、その人、その人、

一 所あるは、その第一、その時、その人、その人、

その人、その人、その人、その人、その人、

一 所あるは、その第一、その時、その人、その人、

その人、その人、その人、その人、その人、

その人、その人、その人、その人、その人、

一 所あるは、その第一、その時、その人、その人、

その人、その人、その人、その人、その人、

その人、その人、その人、その人、その人、

一 林一守はあつたに信義を以て
下を治めりしを以て信義を以て
林一守はあつたに信義を以て
三宅はあつたに信義を以て
中国州の信用を以て信義を以て
中国州の信用を以て信義を以て
中国州の信用を以て信義を以て
中国州の信用を以て信義を以て
中国州の信用を以て信義を以て
中国州の信用を以て信義を以て

一 林一守はあつたに信義を以て
下を治めりしを以て信義を以て
林一守はあつたに信義を以て
三宅はあつたに信義を以て
中国州の信用を以て信義を以て
中国州の信用を以て信義を以て
中国州の信用を以て信義を以て
中国州の信用を以て信義を以て
中国州の信用を以て信義を以て
中国州の信用を以て信義を以て

書

第

下は後を以て國連を、其近の處を以て
前を以て其處を
水は其處を以て其處を、其近の處を以て
其處を以て其處を、其近の處を以て
其處を以て其處を、其近の處を以て
其處を以て其處を、其近の處を以て

其處を以て其處を、其近の處を以て
其處を以て其處を、其近の處を以て
其處を以て其處を、其近の處を以て
其處を以て其處を、其近の處を以て
其處を以て其處を、其近の處を以て
其處を以て其處を、其近の處を以て

利三

[illegible]

中

[illegible]

却道此間無事可
 為長安知不足

和名保名屋
山崎より付居る一藩の藩主は、
主君の人柄好之、事あるに、
りやうの國の事なり

亦九日

六三書

一 佐々木屋一 新田藩主、
此の藩主は、
此の藩主は、

一 此の藩主は、
此の藩主は、
此の藩主は、

一 此の藩主は、
此の藩主は、
此の藩主は、

うんたうた、うんたうた、うんたうた
うんたうた、うんたうた、うんたうた

うんたうた、うんたうた、うんたうた
うんたうた、うんたうた、うんたうた

うんたうた、うんたうた、うんたうた
うんたうた、うんたうた、うんたうた

うんたうた、うんたうた、うんたうた
うんたうた、うんたうた、うんたうた

うんたうた、うんたうた、うんたうた
うんたうた、うんたうた、うんたうた

うんたうた、うんたうた、うんたうた
うんたうた、うんたうた、うんたうた

うんたうた、うんたうた、うんたうた
うんたうた、うんたうた、うんたうた

7

師恩

夢ノ事今ふまらぬ申
うつせ國はもと一ツ村にせん川あり
く山福國様より来る久しお侍之久義
千早とて名入のきりえりつとふもふ
とふ人そし中なるもの申

料室

1.13

28

資料

上越教育大学附属図書館



F81192363